

令和元年度に係る業務の実績に関する評価結果
国立大学法人高知大学

1 全体評価

高知大学は、現場主義の精神に立脚し、地域との協働を基盤とした人と環境が調和のとれた安全・安心で持続可能な社会の構築を志向する総合大学として教育研究活動を展開することを目指している。第3期中期目標期間においては、総合的教養教育を基盤に「地域協働」による教育の深化を通して課題解決能力のある専門職業人を養成するとともに、黒潮圏にある豊かな地域特性を生かした多様な学術研究を展開し、地域社会・国際社会の発展に寄与することを基本的な目標としている。

この目標の達成に向け、学長のリーダーシップの下、学生の地域教育への寄与や、教員の研究フィールド開拓、地域住民とのマッチング及び地域における連携体制作り等を果たすとともに、全学的な「地域協働」による教育を展開し、地域関連科目数を令和元年度は366科目まで増加させるなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

（「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について）

第3期中期目標期間における「戦略性が高く意欲的な目標・計画」について、令和元年度は主に以下の取組を実施し、法人の機能強化に向けて積極的に取り組んでいる。

- 県内就職率向上の取組として県内で活躍する中小企業経営者や団体トップに密着同行し、企業経営者らの考え方やリーダーシップ等を直接学ぶ社長インターンシップ、高知市長インターンシップやUBC（高知大学地域コーディネーター：University Block Coordinator）インターンシップ等を実施した結果、インターンシップ参加者の県内就職率は52.2%となっている。（ユニット「産官学の連携による雇用創出等を通じた地域再生・活性化への貢献」に関する取組）
- 総合的海洋管理教育を体系化するために、農林海洋科学部海洋資源科学科を中心とした学士課程から5年一貫の博士課程へと連結する卓越大学院「新海洋資源塾－海洋フロンティアを拓く「知の海援隊」の育成－」構想を取りまとめている。また、その基本概念を取り入れた教育プログラムを立ち上げるべく、博士課程医学専攻の中に、海洋未利用資源からの生理活性物質の発見と医学分野での応用、海洋気候の健康影響等をテーマとした海洋医学のスペシャリスト人材養成を目的とした海洋医学コースを設置することを決定している。（ユニット「4次元統合黒潮圏資源学の創成」に関する取組）

2 項目別評価

<評価結果の概況>

	特 筆	一定の 注目事項	順 調	おおむね 順調	遅れ	重大な 改善事項
(1) 業務運営の改善及び効率化			○			
(2) 財務内容の改善			○			
(3) 自己点検・評価及び情報提供			○			
(4) その他業務運営			○			

I. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善 ②教育研究組織の見直し ③事務等の効率化・合理化

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載7事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

令和元年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

○ 知的財産担当の体制強化

地域イノベーションの創出を目的とした組織的な産学連携の推進及び知的財産に基づく研究成果の活用を担うコーディネーターUIC (University Innovation Coordinator) を採用するなど、知的財産担当の体制を強化している。これにより、令和元年度の特許等による収入実績は1,600万円を超え、3年連続で1,600万円を超えている。

(2) 財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加 ②経費の抑制 ③資産の運用管理の改善

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載5事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

①評価の充実 ②情報公開や情報発信等の推進

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載2事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

令和元年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

○ SDGsに関する取組の情報発信

SDGsに関する方針や取組をまとめた「Kochi University SDGs Action」を作成し、取組事例集を掲載するとともに、大学の研究活動がSDGsにどのように貢献しているかを明らかにしている。また、作成した「Kochi University SDGs Action」はウェブサイト等で公開し、学内外へ積極的に発信している。

(4) その他業務運営に関する重要目標

①施設設備の整備・活用等 ②安全管理 ③法令遵守

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載5事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

令和元年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

○ 多様な財源を活用した整備手法による整備

民間資金を活用して、患者をはじめとした病院利用者へのサービス向上、大学関係者の福利厚生の実現及び大学スペースの拡大を目的としたアメニティー施設の整備を行っている。また、病院収入等の財源を活用し、院内保育施設、総合研究棟（防災工学系）等の整備を実施している。

Ⅱ. 教育研究等の質の向上の状況

令和元年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

○ インクルージョン支援推進室の整備

学生総合支援センター特別修学支援室の業務内容として合理的配慮の充実及び事前の改善措置を強化し、「インクルージョン支援推進室」へ改組することで、早期修学支援の実施、合理的配慮の提供、バリアフリーやユニバーサルデザインの推進等を通じた事前的环境改善措置、教職員への啓発、学生支援に関する学外関係機関との連携等広範囲な業務に対応できるように改善している。

○ 多様な学習歴等を評価する入学者選抜方法の導入

多様な学習歴等を評価する入学者選抜方法の導入を策定し、「入学者選抜に関する要項」により概要を公表している。入試種別ごとに学力三要素に関心・意欲を加えた4つの要素のうち、どの要素を重要視して選抜を行うかを明記することにより、受験生が自己の適性を見極めやすくしている。

附属病院関係

(教育・研究面)

○ 地域医療を支える四国病院経営プログラムによる人材育成

平成29年度文部科学省「課題解決型高度医療人材育成プログラム」に選定された「地域医療を支える四国病院経営プログラム」において、香川大学、高知工科大学、高知県立大学と連携し、実践力を備えた病院経営者を養成しており、令和2年3月に公表された中間評価では総合評価「S」、地域医療を支える人材の継続的な輩出が高く期待できるとの評価を受けるなど、病院経営人材の育成に取り組んでいる。

(診療面)

○ 入退院支援センター設置による患者サービス向上

多職種連携による医療チームを常態的に構築し、より高質な医療を提供できる体制を整備し、切れ目のない入退院の支援と患者サービス向上を目的として、入退院支援センターを新たに設置し、多職種が連携して患者の不安軽減や切れ目のない入退院を支援している。

○ 光線医療センターによる集学的治療の開発・実用化の推進

特殊光源を用いた診断、治療に関する診療、研究、教育を複数の診療科を横断して行う「光線医療センター」を開設し、乳腺外科や心臓血管外科で臨床使用されているリンパ節・血管を検出するためのナビゲーションシステムや泌尿器科及び消化器外科で治療中のがんを蛍光で検出する光線力学診断（PDD）と光線力学治療（PDT）等の最新の光線医療技術を用いた集学的治療の開発・実用化を推進している。

(運営面)

○ 在宅医療・介護連携のICTシステムの構築と運用

医療・介護情報共有ICTシステムについて、県や市町村と協力し、地域の多職種スタッフを対象とした研修会や説明会、運用ワーキングや事業所訪問を実施することで、実態を反映したシステムの開発や参加事業所の拡大に取り組んだ結果、令和元年度にはシステムの利用事業所数が192施設まで増加しており、地域の医療介護連携の推進へ貢献している。